

## 2 取組について

### (1) 取組の概要 (図 1)

大学の**スポーツ教育活動**における人材・空間・時間・種目・情報の**バリアフリー**を推進するために岡山県下の地域・**総合型地域スポーツクラブ**・企業・NPO・健康科学センター等の**産官学**が協働して、スポーツ教育活動の新たなフィールドを開発し、**双方向**スポーツ教育活動を新たに展開する。このために岡山大学にスポーツ教育活動・スポーツ研究・地域貢献に総合的に取り組む**スポーツ・エンパワーメント・センター (SEC)**を設置し、スポーツ教育活動の充実、学部学科横断型履修プログラムとしてスポーツ実践研究の開講、**課外活動**の充実を図る。

学生が双方向スポーツ教育活動に、主体的継続的に取り組むことで、体力向上・健康増進、コミュニケーション力・社会性の向上等が期待できる。さらにスポーツ活動の拡がりから、実践力と問題解決能力を身に付け、スポーツ・ファシリテータやグローバルに活躍する**人材育成**と、スポーツ文化の振興・**地域の活性化**に貢献する。

(取組を実施する範囲：岡山県、岡山市、倉敷市、真庭市、矢掛町、瀬戸内市、オーストラリア国南オーストラリア州)

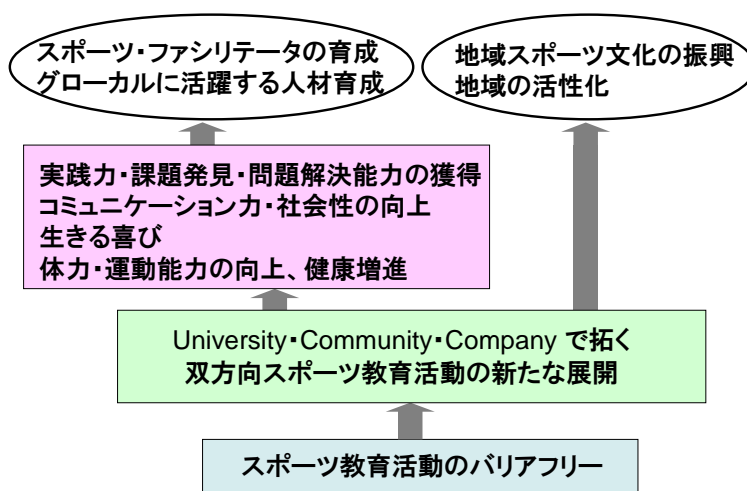


図 1 取組の概要

### (2) プログラムとの適合性

#### 1) 取組の背景と意義

現代の大学生は、個人の心身状況やコミュニケーション力、社会性において、一言で表現すれば、たくましさに欠ける(図 2)きらいがある。実践力や課題発見・問題解決能力を身に付けていくたくましさは、専門教育だけでは育ちにくい。しかしたくましさは育たないままでは専門教育の成果も十分えられにくい。

大学における正課教育・正課外教育を通じたスポーツ教育活動は、体と心を開放する文化活動であり、専門教育とは異なる側面から学生生活を充実させ、体力・運動能力の向上、健康増進、コミュ

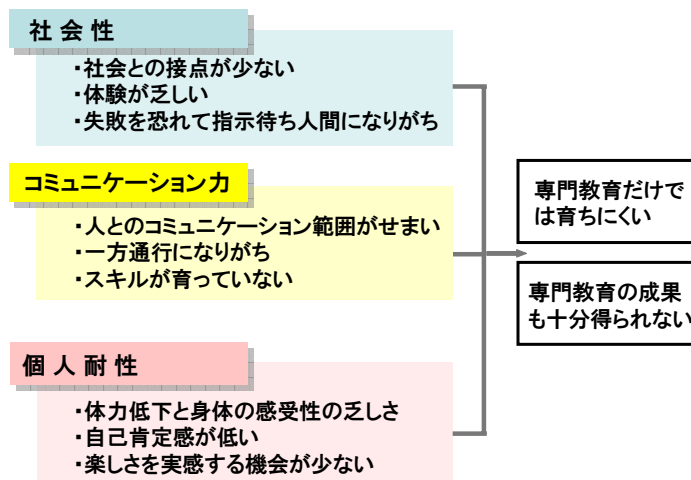


図 2 取組の必要性

ニケーション力や社会性の涵養により、人間としての豊かさと、たくましさを育む効果が期待できる。しかし、これまでの総合大学におけるスポーツ教育活動は、学生が学内で半期1種目のスポーツ実技を行うスポーツ実習と、健康とスポーツに関する講義の受講に終始しており、また正課外教育である運動部活動の大学教育での位置付けは低く、支援も乏しい状況にあった。

本取組の意義は、これまでの総合大学におけるスポーツ教育活動に存在した人材・空間・時間・情報・種目等のバリアを除去（表1）し、学生の主体的な取り組みを推進することにある。これらのバリアフリーを推進することで、多くの学生が多様なスポーツ活動に継続的に参加できる基盤をつくり、体力・運動能力の向上、健康増進だけでなく、アスリート志向の学生には教育支援体制を整備して競技能力の向上を図り、障害のある学生やスポーツ活動に積極的でなかった学生にもスポーツの楽しさを実感できる場を提供し、スポーツ文化の享受から豊かな人生を送る環境づくりに役立つ。また学生自身がスポーツ教育活動に主体的に取り組むことと、産官学の協働でスポーツ教育活動のフィールドを拡げて双方向スポーツ教育活動を行うことで、学生と社会の接点を広げ、他世代と交流することでコミュニケーション能力や社会性を増すことが可能となり、専門教育とともに、将来リーダーとなるべき人材の育成に資するといえる。

とりわけスポーツ実践活動の拡がりや継続と、スポーツ実践の場で実践研究を行うことにより、実践力、課題発見と問題解決能力の育成に有効と考える。このように、スポーツ教育活動のバリアフリーの推進（図3）は、大学生が豊かな人生を送る中からたくましさを育てることが期待できる。またスポーツ活動は、明るく活力に満ちた地域社会の形成に貢献するものであり、地域の活性化に大きな役割を果たすものである。

<p><b>・スポーツ活動の人材のバリアフリー</b></p> <p>世代との交流、大学内外の指導者の活用、トップアスリート・障害者との交流、国際交流</p>
<p><b>・スポーツ活動の空間のバリアフリー</b></p> <p>学内のスポーツ施設の地域解放と学外のスポーツ施設の活用、国際交流</p>
<p><b>・スポーツ活動の時間のバリアフリー</b></p> <p>スポーツ活動時間と継続性</p>
<p><b>・スポーツ活動の種目のバリアフリー</b></p> <p>競技スポーツ・生涯スポーツ、健康スポーツ、障害者スポーツ活動の中で多様なスポーツ種目の経験</p>
<p><b>・スポーツ活動の情報のバリアフリー</b></p> <p>大学からスポーツ情報発信と、国際交流と地域の住民、指導者・アスリートとの情報の共有、スポーツ産業・マスコミとの情報交換</p>

表1 バリアフリーの推進

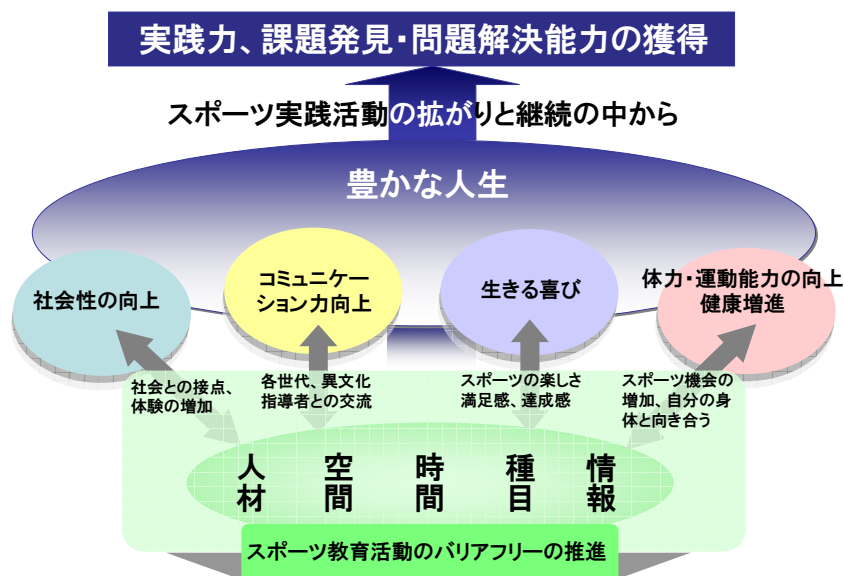


図3 スポーツ教育活動のバリアフリーがたくましさを育てる

## 2) 大学の理念との関連

自然と人間の共生を目指す岡山大学の教育改革は、国際社会・地域社会との連携交流の

充実、総合大学としての利点を活かした学際的で高度な研究の推進により、従来の知識蓄積型教育から課題探求と問題解決能力の育成を図る方向へ向かうものである。本取組は、産官学の協働と国際協力によるスポーツ教育活動のバリアフリーと学生の自主的実践的取組と、スポーツ研究という学際研究を推進することにより本学の理念に沿ったものである。

### 3) 新規性・独創性

#### ① U・C・C (University・Community・Company) の連携でバリアフリーの実現 (図4)

本取組の新規性は、U・C・C の連携でスポーツ教育活動のバリアフリーを推進することにある。これまで教員と同世代の学生だけで取り組んできたスポーツ活動を、SEC を設立して、地域との連携を組織的総合的に取り組むことで、具体化が可能となった。

U・C・C との連携は、卒業生によって設立され、岡山大学の学内スポーツ施設を地域に開放して活用する総合型地域スポーツクラブ「岡大バジャーズ」、岡山大学に隣接する岡山県総合グラウンドを本拠地に、岡山県、実業団天満屋女子陸上競技部、競技団体、マスコミ各社等が連携した産官学協働の総合型地域スポーツクラブ「桃太郎夢クラブ」により、競技スポーツ・生涯スポーツの場を準備する。

全国的に見れば大学と総合型スポーツクラブの連携はいくつか取り組まれているが、ほとんどがすでに地域に設立されたクラブへの支援活動を担うものであり、大学が主体的に施設開放しクラブを設立しているのは、鹿児島工業専門学校のみである。本取組のように、大学内外の組織と双方向で連携を図ったものではない。

さらに岡山大学リエゾンオフィスを介した岡山

市・倉敷市・瀬戸内市・矢掛町の市町村との連携、岡山県南部健康づくりセンターやNPO 法人岡山県障害者スポーツネットワークとの連携により、健康スポーツや障害者スポーツの場を準備し、また南オーストラリア州立スポーツ研究所との提携によりスポーツ研究における国際交流を行う。

以上の取組は、国内外、大学内外における競技スポーツ・生涯スポーツ、健康スポーツ・障害者スポーツのスポーツシーンを教育活動の場として準備し、社会や他世代と双方向に交流する中で、学生がスポーツ活動を継続できる環境を作る新たな取組といえる。

#### ② 総合型地域スポーツクラブとの双方向性の連携

総合型地域スポーツクラブ「岡大バジャーズ」は、岡山大学のスポーツ施設を利用して、卒業生や近隣の地域住民が参加するものであり、どちらかといえば岡山大学の中に地域を

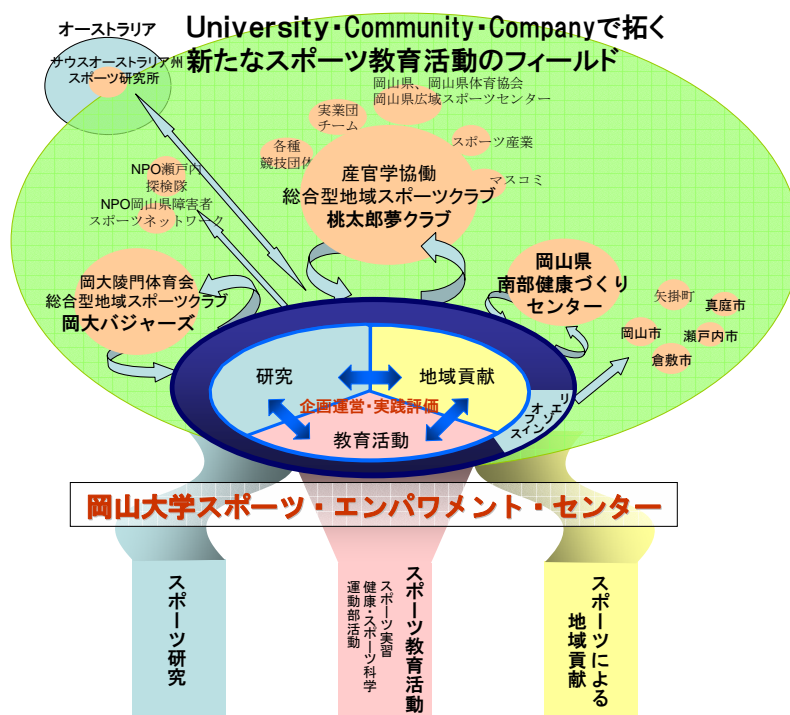


図4 U・C・Cで拓く双方向スポーツ教育活動

取り入れるクラブである。一方、産官学協働の総合型地域スポーツクラブ「桃太郎夢クラブ」は、岡山大学が産官学の一端を担って地域に出て行く役割を果たすものであり、大学に入るクラブと出るクラブの双方向性のクラブを準備している。さらに教員や学生が総合型地域スポーツクラブに参加するだけでなく、両者に所属または関連するスポーツ指導者・トップアスリート・地域担当者が、岡山大学のスポーツ教育活動に協力するという二重の意味で双方向に連携するシステムは独創的といえる。

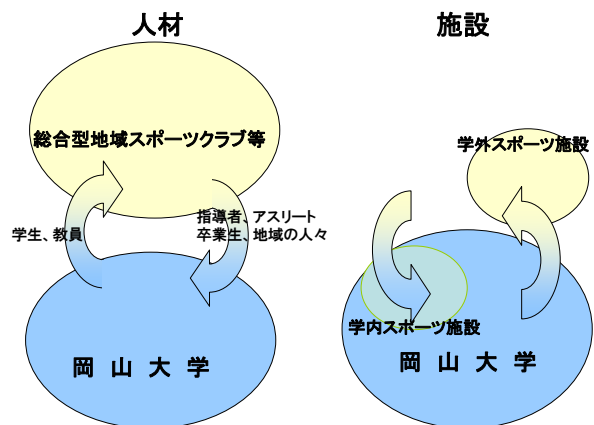


図5 双方向スポーツ教育活動

### ③ マッチングプログラムコースでのスポーツ実践研究の開講

岡山大学では、平成18年度に既成のカリキュラムの枠組みを越えて、学生自身が主体的に履修プログラムを作るオンリーワン型の教育方法をとるマッチングプログラムコース（MPコース）を新設することを決定している。このMPコースには、専門深化拡大型履修プログラムと学部学科横断型履修プログラムの二つのコースがあるが、本取組は学部学科横断型履修プログラムのカリキュラムの中核と位置づけられている。スポーツ実践研究は、地域に密着したスポーツ活動の場を、実践研究のフィールドとして活用するものであり、その教育内容から地域スポーツの企画調整・運営・実践・評価を担い、地域スポーツ振興を行うファシリテータともいべき人材の育成が可能となり、教育方法から地域から国際社会へグローバルに活躍する指導的人材を育成することが期待される。このことは、総合大学におけるスポーツ教育活動の中でも独特の取組といえる。

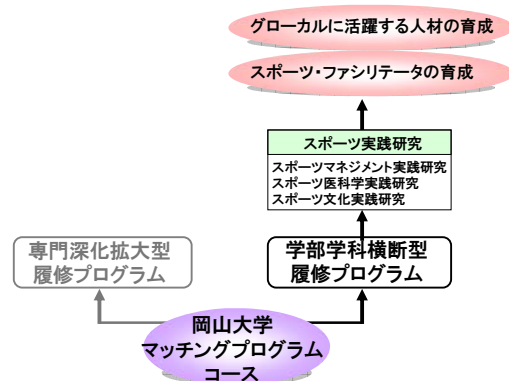


図6 MPコースの中核科目

### 4) プログラムとの適合性

本取組は、地域のスポーツコミュニティの形成や地域の活性化に役立つだけでなく国際交流にも資するものがある。このことは、21世紀の国民スポーツ振興方策を推進するとともに、国連が提唱する「体育とスポーツの国際年」である平成17年の「現代的教育ニーズ取組支援プログラムの地域活性化への貢献（広域複合型）」のテーマに適すると考える。

## (3) 実現可能性（具体的な実施能力）

### 1) 人材及びスポーツ・エンパワーメント・センター（SEC）の設置について

岡山大学には、スポーツ文化や医科学の基礎となる学問研究に携わる教育・医・歯・薬学部等の教員がおり、地域におけるスポーツ文化の形成やスポーツ医科学支援を行う力量

がある。

SECの設立は、国立大学法人岡山大学の中期目標の中のスポーツセンター構想に基づくものであるが、岡山大学に現存の上記の人材の中から、スポーツ科学・スポーツ医学・スポーツ文化担当の教員を配置し、岡山大学内の既存の施設を活用して設立するものである。ただし、設備等は陳旧化しており新規購入の必要がある。SEC担当教員は、教育・研究・地域貢献活動を企画運営し実践評価を行うだけでなく、地域と連携したスポーツ実習やスポーツ・健康科学講義、スポーツ相談、トレーニング指導等を担う必要があり、本取組を実施にあたって事業支援員2名を雇用する予定である。

## 2) 岡山大学マッチングプログラムコース (MPコース) について

平成18年度新設予定MPコースは、平成17年10月入学試験が実施され、学生は理学部を責任部局とする全学協力体制で教育される。専門科目の履修形態は、オーダーメイド型の自主課題コースで、専門深化拡大型と学部学科横断型の2種類の履修プログラムが設定され、スポーツ実践研究は学部学科横断型履修プログラムとして位置付けられる。

## 3) 地域との連携について (資料参照)

今回の取組で連携する「岡大バジャーズ」は、平成7年度から取り組まれてきた岡山大学体育会活動の活性化に源があり、また「桃太郎夢クラブ」は、平成4年天満屋女子陸上競技部が発足以来医科学サポートを継続してきた信頼関係に基づいて設立されたものである。特に「桃太郎夢クラブ」は、オリンピック連続2回入賞、世界陸上3回出場の天満屋女子陸上競技部を中心に、岡山県・県体協・教育委員会はもちろん、天満屋グループ各社、マスコミ各社等企業の協賛が得られている。また、岡山県広域スポーツセンターを介して岡山県下の17の総合型地域スポーツクラブと連携協力を行う予定である。岡山県南部健康づくりセンターは、平成10年発足以来、岡山大学と共同研究を継続しており、リエゾンオフィスを介した「健康づくりエキスパートネットワーク」活動では、岡山市、倉敷市、瀬戸内市、真庭市、矢掛町の市町村と連携して、地域における健康スポーツ活動の多様な展開と人材育成に継続的に貢献してきた。



その他今回連携する予定の組織等は、これまで岡山大学教員が深く連携を継続してきたものであり、本取組についての準備性は高いと考える。

## (4) 教育の社会的効果等

本取組により、下記のような教育の社会的効果がえられると考えている。

### 1) 国体後の岡山県のスポーツ振興と、健康おかやま21の推進の一端を担う。

平成17年に開催されるおかやま国体に向けて、岡山県ではスポーツ環境の充実、競技力の向上、医科学サポート体制の整備を図ってきた。その成果を国体後も維持し、継続させる上で本取組は有効といえる。

また地元企業やマスコミ各社との連携により、地域スポーツ振興の機運を醸成し、さら

に健康おかやま21の推進の一端を担うことも可能である。

## 2) 岡山県の地域活性化に役立つ。

本取組は、岡山県下の5市町村における地域貢献活動に基盤を置いており、競技スポーツと生涯スポーツの全てのスポーツシーンにおいて、子どもから高齢者まで多様な年代の交流を深め、地域のスポーツコミュニティの形成し人々の絆を強め地域の活性化に役立つことができる。

## 3) 総合大学におけるスポーツ教育活動のモデルとなる。

総合大学におけるこれまでのスポーツ教育活動のバリアフリーを推進する視点は、岡山大学だけに適用するものではなく、これからの全ての総合大学におけるスポーツ教育活動のモデルとなり、大学教育において学生が多様なスポーツ活動に参加できる基盤をつくることとなる。

## 4) 総合型地域スポーツクラブ活動の新たなモデルとなる。

岡山大学陵門体育会を母体にした「岡大バジャーズ」と、岡山大学・岡山県を代表とする地域・企業スポーツが連携した産官学の協働による総合型地域スポーツクラブ「桃太郎夢クラブ」は、地元大学を基盤とするスポーツクラブとして、総合型地域スポーツクラブ活動の新たなモデルとなる。

## 5) 国際交流と「体育とスポーツの国際年」を推進する。

スポーツ教育活動の多様な場面で国際交流を活発に行うことは、地域から国際社会へグローバルに活躍する指導的人材を育成する役割を果たすとともに、国連提唱の「体育とスポーツの国際年」2005年の活動を推進する。

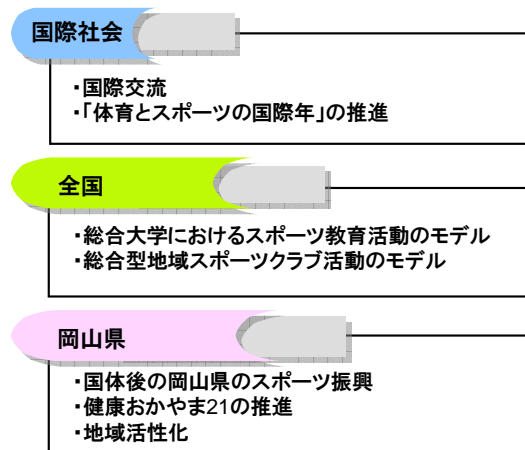


図7 教育の社会的効果

## (5) 評価体制等

本取組は、企画運営委員会が実施する教育ニーズ調査結果等を活用して企画運営を行うが、平成17年12月には地域・学生と教員で構成される企画調整会議を開催し、同時に評価委員会の設立準備を行う。評価委員会は、学生・連携する地域の指導者・教員から構成され、学生評価・外部評価・自己評価の3面から評価する仕組みとする。また平成18年度からは、SECが中心となって、企画運営委員会・企画運営会議・評価委員会を開催し、目標策定・計画・実践・評価を定期的継続的に行う。